

## 第1学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 「ごめんなさい」でぼっかぽか 1-(4)正直誠実
- 2 ねらい ・うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に生活しようとする心情を育てる。
- 3 資料名 きんいろのクレヨン(ぶんけい)

## 4 指導にあたって

## (1) 主題設定の理由

本学級の児童が入学して2ヶ月が過ぎようとしている。今後は、ますます友達や上級生、そして先生などの様々な人々と人間関係を築いていくことが必要となる。

より人と人が心を通わせるためには、お互いを信頼し合うことが大切である。気持ちをごまかしうそをついたりすると、お互いの心に距離ができてしまう。

1年生は、まだ自己中心的な考えが強く、自分の立場を守りたいという思いから、うそやごまかしの誘惑に負けてしまうことが多い。しかし、1年生の時期だからこそ、自分に正直に過ごす快さに気づかせ、自分に正直に過ごすことは人間関係をより深める上で大切なことだと学ばせたい。

## (2) 児童の実態

本学級の児童21名(男子5名、女子16名)は、ほとんどが同じ保育園出身ということもあり、入学以来、全体的に仲良く過ごしている。言われたことはしっかりしようというやる気があり、教師に言われたことを守ろうという雰囲気がある。

また、教師や友達に、自分ができたことや言ったことを認めてほしいという思いが強い。「先生、見て!」「先生、できたよ!」という元気な声は本学級にあふれている。

しかし、認めてほしいが故に、自分に不利なことが起きると、ついついだまってしまうたり、「自分じゃないよ」といいわけをしてしまうことがある。それが元で、友達に責められたり、友達との言い合いに発展してしまったりする。今は、まだささいなトラブルで終わっているが、うそやごまかしが続くと、友達関係が崩れることにつながる。そこで、素直に自分の気持ちを伝えることが損なことではなく、友達と仲良く過ごすために大切なことだと気づかせたい。さらに、「ごめんなさい」と正直に自分の気持ちを表すことは友達と信頼関係を築く魔法の言葉であることを知らせたい。そして、実生活で使っていこうとする態度を育てたい。

## (3) 指導にあたって

本資料は、誰もが経験したことのあるような状況が描かれている。仲の良いのぼるととみこの人間関係は、1年生にとって自分のことのように想像できるであろう。また、身近なクレヨンを通してのぼるの気持ちの揺れは誰もが経験しており、その気持ちに寄り添えるであろうと考え、本資料を選んだ。

児童にとって自分に関係する問題解決的な道徳の時間にするため、のぼるだったらどうするかを考える場を設定する。のぼるはどうしたかを考える手だてとして「だまっていようか・・・」というのぼるの言葉に焦点を当てる。正直に言おうかどうしようかと揺れる、のぼるの気持ちに添わせたい。そして、ごまかししたり、いいわけをしたりしようと考えたにもかかわらず、「ごめんなさい」と正直にあやまったのぼるの誠実さに気づかせる。正直にあやまって明るくなったのぼるの気持ちを体験できるように、児童はのぼるに教師はとみこになって劇化する。

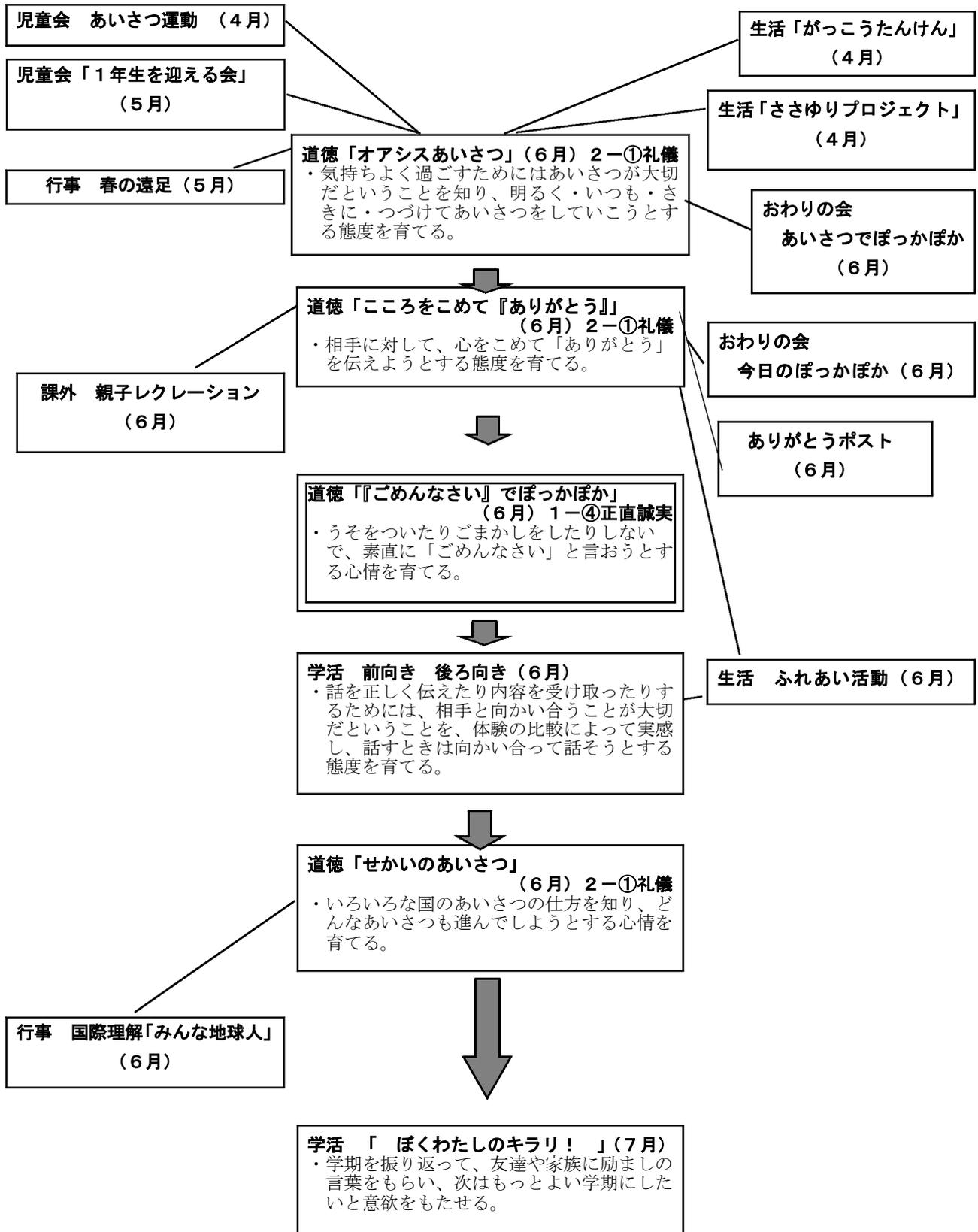
## (4) 人権教育との関わり

互いに心地よい人間関係を築くためには、あいさつは欠かせない。1年生では、あいさつはお互いの様子や気持ちを伝え合う最初の一步として、あいさつに取り組んでいる。あいさつにはいろいろあるが、なかでも、自分の過ちをごまかさずに正直に認めるあいさつ「ごめんなさい」は、より信頼できる関係を築く大切なあいさつである。本時では、ごまかししたりせず、自分に素直に過ごすことの快さに気づかせ、「ごめんなさい」を素直に言おうとする実践力へとつなげていきたい。

また、本時の学習を通して、本校の考える人権感覚で身につけたい力の一つである「④伝え合う力」につながるのではないかと考える。

5 人権教育に関連する道徳や特別活動

「あいさつ」でぽっかぽか ～あいさつをとおした教育活動の流れ～



6 本時の学習

- (1) 準備 場面ごとの絵、クレヨンの絵、クレヨン、のぼるの表情の絵  
 (2) 展開

配時	学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点 ◆人権教育の視点
導入	1 自分の経験を話す。 (5分) ○今までに、だれかのものをなくしたり、こわしてしまったりしたことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妹のおもちゃで遊んだら、壊れてしまった。</li> <li>・お父さんの車に傷をつけてしまった。</li> <li>・友達に鉛筆を借りて、なくしてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな発言も否定せず、経験談を聞く。</li> </ul>
展開	2 資料を読んで話し合う。 (35分) ☆P.74～P.76.L.2まで読む ○とみこさんのクレヨンはどんなクレヨンですか？  ○「ぼきっ」とクレヨンが折れたとき、のぼるさんはどう思ったでしょう。  ◎「だまっていようか・・・」というのぼるさんは、この後、どうしたと思いますか？  ○どうして「返事ができなかった」のでしょうか。  ☆P.76～最後まで読む ○とみこさんがゆるしてくれたとき、のぼるさんはどんな気持ちになりましたか。 ・のぼるになって劇化し、のぼるの気持ちを考える。  ○のぼるさんのように正直に話してよかったということ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい</li> <li>・もらったばかり</li> <li>・色がたくさんそろっている</li> <li>・しまった</li> <li>・もしかして折れちゃったのかな</li> <li>・大変だ</li> <li>・どうしよう</li> <li>・ごまかしたと思う。 (誰も見ていないから、ばれなければいいから、怒られるのがこわいから、知らなかったことにすればいい)</li> <li>・あやまったと思う。 (とみこさんはゆるしてくれると思うから、わざとじゃないけど悪いことをしてしまったから、かくしきれないから)</li> <li>・あやまろうかだまっていようかまよったから</li> <li>・とみこさんがきんのクレヨンを使ったら気づくかもしれないから。</li> <li>・友達でいられなくなるかもしれないから。</li> <li>・うそをつくと遊びづらくなるから。</li> <li>・とみこさんはおこるかもしれないけどゆるしてくれるかもしれない。</li> <li>・自分の気持ちがすっきりしないから。</li> <li>・正直に言って良かった。</li> <li>・とみこさんとまた友達でいられる。</li> <li>・とみこさんはやさしいな。</li> <li>・とみこさんにわかってもらえてうれしいな。</li> <li>・忘れ物をしてしまったけれど、先生に正直に言ったら、貸してもらえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のぼるととみこは友達であり、とみこが、クレヨンを大切に使用していることを押さえる。</li> <li>・クレヨンが折れた時ののぼるの気持ちを、児童と共有するため、実際にクレヨンを折る。</li> <li>・のぼるの「だまっていようか・・・」と「返事ができなかった」という言葉に注目させ、ごまかそうとする気持ちと、正直にあやまろうとする気持ちの間で葛藤していることに気づくようにする。</li> <li>・板書を上下に分けたり、のぼるの表情の絵を使ったりして、だまっていようという気持ちと正直にあやまろうという気持ちの迷いについて対比させてまとめる。</li> <li>・のぼるの気持ちに沿わせるため劇化する。とみこ役は二人のやりとりの間を意識して教師が行う。</li> <li>◇のぼるのような自分の体験を話したり、友達の話の話を聞いたりしよう</li> </ul>

	はありますか。		としていたか。
まとめ	3 教師の説話 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごまかそうとすると、自分自身がずっと気になってしまうんだね。</li> <li>・すぐにあやまっていれば、よかったのにな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直な気持ちで接すると自分自身が気持ちよく過ごせるということ、そして、正直に接すると、相手もわかってくれるということに気づかせる。</li> </ul>

(3) 評価の観点

- ・自分の過ちをごまかさないうで、素直にあやまろうとする気持ちをもつことができたか。  
(発言、児童の様子より)

(4) 板書計画

